

和歌山病院での実習を終えて



金澤 里映

呼吸器内科の臨床実習の一環として、二日間、和歌山病院で実習させていただきました。

大学病院での普段の臨床実習とはまた違った観点から講義して頂き、知識を得ただけでなく今後の臨床実習への取り組み方も変わるような、充実した実習となりました。

特に、今まで避け続けてきた胸部 X 線画像読影について、正常構造を頭にいれた上で論理的に読影していく方法をご教授頂き、本当に為になりましたし、苦手意識が薄れ、今後積極的に読影していきたいと意識が変わりました。

実際、医大に帰ってから早速何人かの患者さんの胸部 X 線画像読影を行ってみたところ、もちろん完璧に診断をつけることはまだ出来ませんが、論理的に考察し、部分的には確信をもって所見を述べる事が出来、和歌山病院での講義の成果を感じました。先生もおっしゃられたように、和歌山病院での講義をきっかけとして、今後の大学の実習で学びを深め、胸部 X 線画像読影できます、と自信をもって答えられるよう目指します。

さらに、和歌山病院は県内で唯一結核入院病棟をもつということで、改めて結核について講義頂きました。この講義においても、感染対策について過剰な対策は必要ないなど話される中で、論理的に考える、ということが重視されているのが印象的でした。病棟では空気の流れを意識した構造や、常日頃チェックされていることなど見学させて頂き、感染対策の中で必要なこと・不要なことを論理的に線引きし、必要なことに関しては遵守するという感染対策の手本を学ばせて頂きました。

また、南方病院長先生が、「良い」医者というフレーズを繰り返されており、医師として働く日もそう遠くない今、漫然と日々の実習をこなしてはいけないと改めて身の引き締まる思いが致しました。大学では、主体的に取り組まずともその場をやり過ごせることが多々ありますし、とりあえず知識を詰め込んでいけば試験にも合格できました。しかし、それでは駄目なんだと、論理的に考えることの大切さ、論理的であるからこそ確信を持ち主体的に症例に取り組む姿勢も生まれるのだということを教えて頂きました。

短い期間ではありましたが、有意義な数々のお話や考え方のご教授を頂き、実りある実習でした。ご多忙の中ご指導いただきました南方病院長先生、駿田副院長先生はじめ、和歌山病院スタッフの皆様、お世話になりました。ありがとうございました。